

# 児童の健康意識 食育で

弘前・朝陽小  
公開研究会 結果を情報共有

健康教育の実践研究に取り組む弘前市の朝陽小学校（斎藤昭校長）で12日、公開研究会が開かれた。同校では、食育を通じた児童の健康意識向上を図っており、参加した市内小中学校の教職員ら約60人が実践結果について情報共有した。中南区連携推進協議会と市教育委員会が主催。同協議会が2015年度から展開している地域課題解決事業（健康教育推進事業）の一環で、同校は19年度か



ら市の「弘前式健康教育コアカリキュラム」の研究指

定校となっている。同日は「健康な生活に向けて進んで取り組む児童の育成」食が「つなぐ命と未来」をテーマに開催した。

2年生と4年生の公開授業では、児童らが野菜を摂取することの大切さや、噛んで食事することが体に与える影響について学ぶ様子を披露。引き続き同校が、19年度から取り組んできた授業内容や成果を報告した。

弘前大学大学院医学研究科特任教授の中路朝陽小学校で行われた健康教育研究会

重之氏による「短命県返上と健康教育」と題した講演も行われ、中路氏は「短命県返上には、健康について戦略的に学校教育を行う必要がある」などと課題を指摘した。（田中康貴）

陸奥新報 令和2年11月13日掲載 陸奥新報社提供

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは堅くお断りします。